

自衛艦隊司令官講話等シリーズ（その9）

【人間教育】（15SF前期指揮官会議示達 15. 1. 16）

ヒトは、獣として生まれ、躰られて学習し教育によって人間と成る 〈青炎〉

1 脳の発達

b y 月刊誌『諸君』2003年8月「家庭が脳を育てる」

ヒトの脳（約1500g）は、この三万年ほど構造に変化なく、140億個の細胞を有し、一個の細胞に500本の神経（総計70兆本）が連結しているので、神経細胞から成り立っているともしいう。この神経細胞が枝分かれし相互接続してネットワーク化することを脳の発達といい、心理学上の人格の発達と密接に関係している。

5歳頃までは、安楽平穏な環境下（←→不機嫌で怖い顔の母親に接する）の秩序正しい生活（←→深夜族の親に付き合わせる・ジェンダーフリー式教育）及び七の異なる多種多様な刺激（←→抱っこされない・やさしく語りかけられない・あやされない）が、脳の健全な発達を促す。

心は知情意で構成される。知識（←→教育ビデオのみ）・情緒（←→双方向的伝授たる絵本を読んでもらえない）・意欲（←→父親から高い！高い！や肩車をしてもらえない）がバランスよく発達していくことが、脳の健全な発達に繋がる。お受験が大事とばかり知を与えすぎると、情と意の不足するいささか心の歪んだ子供になりかねない。人格の基盤となる自我の感性は8歳頃である。

“親を観て子は育つ”といわれているとおり、母性的愛情を多く受けていない子が他者に対して攻撃的となり、不整脈的愛情が欠如する子は無気力になりがちである。

2 遣る気

b y 日刊紙『産経新聞』2003年9月特集

学習・挑戦・創造を支える遣る気は、人間を進化させてきた精神活動と肉体行動を生み出してきた原動力ともいえる。遣る気は、何にでも興味を持って前向きに考え行動すること及び体の健康を保つことで維持される。

3 笑いの効用

b y 日刊紙『産経新聞』2003年9月特集

笑いは、脳の血管を開き血流を増加させ、脳を活発化する。

4 若年性健忘症

b y 月刊誌『PRESIDENT』2003年8月

ヒトの脳は、多くの人と交わり、多くのことに接すると、その経験が刺激となって活性化し発達する。しかし、幼少時から便利な道具（テレビ・電卓・携帯電話など）に頼

って暮らしていると、脳を育てる刺激が乏しく、思考力や記憶力は発達しない。つまり、若年性健忘症とは、脳の発達が未熟なだけで、キチンとリハビリ（音読・書文）をすれば1～3年で治る。

5 海上自衛隊

最近生起する海上自衛隊の人的起因の問題（事故・規律違反・失敗・過誤）に、従前と異なる問題（放火・セクハラ・官僚化）が漸増している。その原因の一つに、知力に傷害がなくとも、階級の如何を問わず、当該隊員の情緒・意欲に関する部分の脳の発達が未熟ではなからうか？また、海上自衛隊員の“予定は未定にして決定にあらず”を常態とする刹那主義・その日暮らし・無計画主義の潜在意識も悪影響を与えているのではなからうか？

よって、隊員の無計画主義の潜在意識を変革させるため Quality of Life（上質な生活＝予定の立つ生活）を追求すること並びに当該隊員の情と意に関する脳の発達を促すため指定図書のパラダイム及び人生計画の作成を課することを、各級指揮官は人間教育の一環として実践し、自衛艦隊の精強維持に貢献して貰いたい。

（開発官付言）

心の知情意のバランス・遣る気の醸成・笑いの推奨・若年性健忘症の防止は、いずれも職業人の前に人間として努力しなければならないことであり、意識して良い方向へ自らが自らを導くべきである。

ついでに一言。

世の中の情報の中には多くの知恵や生きるためのヒントが溢れている。それを記憶または記録して、折に触れて整理しておき、自分の主義・哲学を論述する際に活用することは大変有用であるので是非実施されたい。

以上